

7 その他全般的事項

<工学研究科 宇宙航空理工学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・FD・SD委員会を設置している。
- ・同委員会の下に、FD活動WG、SD活動WG、FD活動評価点検委員会、ジャーナル編集委員会を置いている。
- ・学長の下に、教育活動顕彰審査選考委員会を置いている。
- ・委員会規程は別添のとおり。（中部大学FD・SD委員会規程、中部大学FD活動評価点検委員会規程、中部大学教育活動顕彰規程、中部大学教育活動顕彰審査選考委員会規程）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD委員会：開催回数3回、委員 35人（委員長は学長）、参加人数第1回 33人、第2回 86人、第3回 32人
- ・FD活動WG：開催回数8回、委員 12人（WG長は大学企画室高等教育推進部長）、参加人数第1回12人、第2回 12人、第3回 10人、第4回 12人、第5回 11名、第6回 12人、第7回 10人、第8回 12人
- ・SD活動WG：開催回数5回、委員 9人（WG長は大学事務局長）、参加人数第1回 9人、第2回 9人、第3回 9人、第4回 9人、第5回 7人
- ・FD活動評価点検委員会：開催回数3回、委員13人（委員長は大学企画室高等教育推進部長）、参加人数第1回 11名、第2回 10人、第3回 8人
- ・教育活動顕彰審査選考委員会：開始回数2回、委員20人（委員長は教育担当副学長）、第1回 17人、第2回 18人
- ・ジャーナル編集委員会：開始回数2回、委員10人（委員長は委員長は大学企画室高等教育推進部長）、第1回 10人、第2回 9人

c 委員会の審議事項等

- ・FD・SD委員会
 - ①FD・SD活動の在り方に関する事項 ②FD・SD活動の実務に関する事項 ③教育職員の顕彰に関する事項
 - ④教職員及び博士後期課程の学生の資質開発を図るための組織的な研修に関する事項 ⑤その他FD・SDに関し必要な事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・新任教員節女会資料の配付

- ・教員活動重点目標・自己評価シートの設定
- ・学生による授業評価
- ・教員による授業自己評価
- ・授業改善アンケート
- ・Cumoc（キューモ：Chubu University Mobile Clicker）システムの提供
- ・全学公開授業
- ・授業サロン
- ・CUルーブリックライブラリ（Chubu University Rubric Library）
- ・授業改善ビデオ撮影支援
- ・授業のオープン化制度（全学公開授業、授業サロンの開催を含む。）
- ・FDフォーラム・FD・SD講演会
- ・キャリアアッププログラム
- ・FDカフェ
- ・FDオンデマンド講義
- ・FD活動支援経費の補助
- ・教育活動顕彰制度
- ・教職員総会（SD）
- ・中部大学『魅力ある授業づくり』プログラム
- ・FD活動評価点検
- ・FDに関する刊行物
- ・「中部大学教育研究」の刊行
- ・学部・研究科FD委員会

b 実施方法

- ・**新任教員説明資料の配付**
FD活動全般及び教育活動顕彰制度について、採用日の辞令交付後に配付。
- ・**教育活動重点目標・自己評価シートの設定**
専任教員全てが、各学部が定めた教育活動、研究活動、社会貢献、学内行政に関する項目について重点目標を定め、学部長、学長に提出し、年度末に自己評価を行い、その結果を学部長、学長に提出。
- ・**学生による授業評価**
各学期末（年2回）に、学生の実履修科目について、Webを利用して実施。その結果及び担当教員のコメントをWeb上で、全学生及び教職員が閲覧可能。
- ・**教員による授業自己評価**
各学期末（年2回）に、教員が担当する授業科目について、基本項目、授業目的、熱意態度、授業方法、授業運営、内容理解、総合評価、学生に対する認識等の設問項目により実施。
- ・**授業改善アンケート**
授業担当教員が該当科目の開講期間中に、受講生と担当教員のための双方向コミュニケーションツールとして、Web上で学生の意見を聴き、反映することができるシステムを提供。
- ・**Cumoc（キューモ）**
「授業改善アンケート」システムにおいて、受講生が携帯電話、パソコンを利用して回答するクリック機能のことで、授業中に教員が作成したアンケートに対し、受講生からの回答をリアルタイムに集めて、その結果を教員と受講生が一緒に見ながら授業を進める双方向対話型の授業を構築していくためのツールを提供。
- ・**全学公開授業**
授業担当者が授業を公開することで、自分の授業の課題を明確にし、抱えている問題や悩みに関するアドバイスを得る場として位置づけ。

- ・ **授業サロン**
異なる分野、文理の壁を越えた専任教員（5人程度）が、互いの授業見学を行い、授業の考え方、工夫、改善等について情報・意見交換を通じて、授業改善のヒントを見出すことを目的として実施。
 - ・ **CUルーブリックライブラリ（Chubu University Rubric Library）**
教員が自ら作成したルーブリックの「蓄積」を行い、互いに「共有」することで、ルーブリックの「作成支援」に繋げることを目的に運用。
 - ・ **授業改善ビデオ撮影支援**
担当部署が協力して、講義室に出張撮影し、撮影した映像をDVDなどに記録して教員に提供。
 - ・ **授業のオープン化制度**
他の教員の授業を参観して更なる授業改善への模索を行うべく、原則として全ての授業のオープン化を実施。
 - ・ **FDフォーラム、FD・SD講演会**
FD委員会が企画し、大学教育等の改革、改善、質的向上の推進を図るため、学内外の講師により全教職員に案内して実施。
 - ・ **キャリアアッププログラム**
授業デザイン、授業技術・運営、情報通信技術等について学内外の講師により、大学教員に求められるこれらのスキルアップを図るプログラムの実施。
 - ・ **FDカフェ**
大学教育に関する様々なテーマ等について、教職員が自由に意見を交わすことで情報やスキルを共有する場の提供。
 - ・ **FDオンデマンド講義**
全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）が運営する「実践的FDプログラム・オンデマンド講義サービス」を希望者（専任教職員）に対して、中部大学「FDオンデマンド講義」として提供。
 - ・ **FD活動支援経費の補助**
教員間におけるFD活動を奨励、支援し、教育活動を一層充実させるために、学科、教室等のFD活動に対し、その経費の一部を補助。
 - ・ **教育活動顕彰制度**
教員の教育活動に係る業績、学生による授業評価、学内行政（学務活動）・社会貢献に係る業績などを評価項目とし、教育活動全般を総合的に評価して、特に優れた活動をした者に対する教育活動優秀賞及び特筆すべき教育活動実績を挙げた者に対する教育活動特別賞の2種類の表彰を施行。
 - ・ **教職員総会（SD）**
各学期の初めに実施する。理事長から学園方針を、学長からは大学方針を説明。
 - ・ **中部大学『魅力ある授業づくり』プログラム**
FD・SD委員会が主催するFDプログラムへの参加状況により、規定の要件を満たしたものに、その努力を称えて修了証を授与する。
 - ・ **FD活動評価点検**
全学・学部等で実施したFD活動の目標、取り組み、課題等について、評価・点検を行い、学内外に公表。
 - ・ **「中部大学教育研究」の刊行**
大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・質的向上に役立てるという目的をもって刊行。
 - ・ **学部・研究科FD委員会**
学部・研究科の現場における実行組織
 - 開催状況（教員の参加状況含む）
 - ・ FDフォーラム：令和6年度は開催せず
 - ・ FD・SD講演会：開催回数 2回、第62回145人、第63回128人
 - ・ 全学公開授業：開催回数 4回、第41回 13人、第42回 9人、第43回 11人 第44回 12人
 - ・ 授業サロン： 2グループ 10人
 - ・ 教育活動顕彰：教育活動優秀賞 7人、教育活動金虎賞 4人
 - ・ キャリアアッププログラム：開催回数 9回、第154回 6人、第155回 7人、第156回 13人、第157回 25人、第158回 5人、第159回 8人、第160回 3人、第161回 12人、第162回 6人
 - ・ FDカフェ：開催回数1回、第36回 15人
 - ・ FDオンデマンド講義： 個人20人
 - ・ FD活動経費補助： 6件 総額 260,004円
 - ・ 『魅力ある授業づくり』プログラム修了証授与：修了者4人
 - ・ 教職員総会：開催回数2回、春学期 632人(含リモート参加)、秋学期 596人(含リモート参加)
- ※学部・研究科FD委員会は、活動目標、取り組み状況、課題と今後の取り組みを掲げて常時活動している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

本学では、全学的な組織として「FD・SD委員会」を置き、その下に「FD活動WG」、「SD活動WG」及び「FD活動評価点検委員会」及び「ジャーナル編集委員会」を置いており、これらの委員会を中心として、上記の活動内容の結果を踏まえつつ、より個性的で多様化した授業改善・教育活動の向上を図るべく、積極的にFD活動に取り組んでいる。

一方、教育活動顕彰制度により、教育の一層の改善を図るため、教育活動の分野において、優れた功績を挙げた教育職員や教育組織を顕彰している。

また、毎年、「教育・研究活動に関する実態資料（1年間に行った教育、研究、社会貢献、大学運営に関する活動の基礎的なデータ集）」及び「中部大学教育研究（大学教育の理念・手法・改善策などを論じ合う場を提供し、教育改善・質的向上に役立てるための学内雑誌）」を教職員に配布し、PDCAサイクルの自己点検評価等の基礎的資料としての活用を求めている。

なお、学部・研究科FD・SD委員会では、常時活動を続け、教育プログラムの変更、授業内容の変更等まで踏み込んで、魅力ある授業づくりに取り組んでいる。

さらに、平成20年度から毎年度、主に組織を単位として行っているFD活動についての評価点検を実施し、「FD活動評価点検報告書」として、ホームページで公表している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 授業改善アンケート・CUMOCシステム稼働：春学期 令和6年4月～9月、秋学期 令和6年9月～令和7年3月
- ・ 「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」：令和6年7～9月、令和7年1～3月
- ・ 「学生による授業評価」の結果に対する教員のコメント入力：令和6年8月、令和7年2～3月
- ・ 「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」の結果公開：令和6年9月～、令和7年3月～

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価の結果は、数値だけではなく、学生から寄せられた自由記述のまとめと授業評価に対する教員からのコメントも在学生、教職員向けに公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

理工学部（数理・物理サイエンス学科、AIロボティクス学科、宇宙航空学科）は、令和5年度に設置したところであり、その設置の趣旨・目的・教育目標等を着実に実行するため、全学一体となって更なる魅力ある授業づくり、学生による授業評価等を実施し、教育研究水準の向上、教育の質の向上に努める。

数理・物理サイエンス学科は学生定員40人に対し、開設年度である令和5年度に59人（収容定員充足率 1.47倍）、令和6年度に 41人（入学定員超過率 1.02倍、収容定員充足率 1.21倍）の入学者を受け入れて、数理科学（数学、データサイエンス等）・物理科学（物理学、物質科学、宇宙・地球科学等）の分野の知識及び技術を基盤として、自律的に学ぶ力、自由な発想力、論理的思考力、物事の本質を見抜く洞察力と分析力、課題の発見力と解決のための実践力、判断力、コミュニケーション能力を持った、新しい時代の発展とイノベーションを担う「あてになる科学技術者」の育成に邁進し、社会及び地域等から高い評価が得られるよう努める。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和7年9月 公表予定

b 公表方法

学内外に向けて、ホームページで公開する予定。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和2年度に「(公財)大学基準協会」の認証評価を受審し、令和3年3月に大学基準に適合していると認定されて

いる。

- ・令和9年度に「(公財)大学基準協会」の認証評価を受診予定。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。